

子どもの発達を考える会 演題『学びにつまずきがある子どもへの具体的支援』 ～ピンチをチャンスに変えるサポートとは～

星槎大学大学院教育実践研究科 教授 ^{あべ}阿部 ^{としひこ}利彦 先生



【阿部 利彦 先生の御紹介】

1968年生まれ。早稲田大学人間科学部卒業。東京国際大学大学院社会学研究科修了後、東京障害者職業センター生活支援パートナー（現ジョブコーチ）、東京都足立区教育研究所教育相談員、埼玉県所沢市教育委員会健やか輝き支援室支援委員などを経て現職。長年、発達障害がある子とその家族の相談支援に携わり、その豊富な経験から全国各地で多数の講演会や研修会の講師を務める。

☆著 書☆

『これで書ける！サクサク作文サポート』（東洋館出版社 2021年）

『発達障害の子どもたちから教わった35のチェンジスキル』（合同出版 2020年）

『人的環境のユニバーサルデザイン』（東洋館出版社 2019年）

『これだけは知っておきたい 発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援：多様性のある子どもたちのあしたのために』（金子書房 2019年） 他多数

11月14日（火）ライフパーク倉敷大ホールに阿部先生をお招きし、集合形態で開催しました。保護者、福祉関係の方をはじめ、市内の保育所、幼稚園、認定こども園、倉敷市立学校の先生方に受講いただきました。

学校生活のさまざまな場面でつまずきのある子どもたちが安心して学ぶことのできる学級・学校を作るために、私たちができることはどのようなことなのか、具体的な支援事例を交えて紹介していただきました。

《受講者の感想》

- 支援の具体的な事例をたくさん見せていただき、こんなやり方もあるのだなと気づきを多くいただきました。子ども達の個性や特性は様々ですが、その子に合わせた先生方の準備や授業での取組は素晴らしいと思いました。また、支援を必要とする子どもだけでなく、全ての子どもにとって分かりやすい取組も参考になりました。（相談員）
- 今回の研修で「般化する」という言葉を初めて知りました。療育施設でできるようになったことがあったり、逆に園でできることが増えたりした時は、家族や療育施設の方と情報共有し、繰り返しその子が生活の中で実践することで般化させていくことが大事であるということが分かりました。（保育士）
- 一人一人をよく理解し、その子に合った場所、伝え方等、支援の手立てを愛情をもって工夫していきたいと改めて感じることができました。保育者の声のかけ方、関わり方が周りの子ども達にも全て伝わっているのが、気になる子ども達を拒絶しない多様性を認め合えるあたたかいクラスづくりをしていきたいと思います。（保育教諭）
- 様々な実践例を見せていただき、すぐに使えそうな教材があったので早速作って使っていこうと思いました。また、視覚化をうまく取り入れて、学んだことの般化を考えながら指導していこうと感じました。その子どもにとって最適な学びを作っていくことが大切なので、明日からできることを少しずつ実践していこうと思います。（小学校教諭）
- いろいろな校種の実践を紹介していただき、保育園や小学校の取組でも、中学校でもできそうなことがたくさんありました。特別支援教育の視点を取り入れた授業は、支援が必要な子どものためだけでなく、全ての子どもの学びやすさにつながっていると思いました。（中学校教諭）
- 支援が必要な児童生徒が、成功を積み重ねることで自立への自信をつけ、いろいろなことに挑戦してほしいと思いました。そのためにも、活動しやすい場や時間の構造化、学級内での話し合いやルールの確認など、子どもの目線に立った環境づくりをしていきたいと思います。（指導員）



研修風景



生徒指導研修

演題「救えたはずの命から託された願い
～多機関連携で子どもを守る～」

11月24日（金）ライフパーク倉敷大ホールで、福岡県警察本部生活安全部少年課 課長補佐 安永 智美 先生から受講者約130名を対象に御講演をいただきました。安永先生は日々、子どもを犯罪の被害者にも加害者にもしないための少年相談や立ち直り支援、講演活動等を行われています。子どもたちを取り巻く「虐待」「性被害」「自死」「いじめ」「薬物」など、実際に関わられた事例から、子どもを守るために関係機関の連携の大切さを教えていただきました。「子どもは出会える大人で未来が変わる。」という言葉が大変印象的で学びの多い研修となりました。



《受講者の感想》

- 「きっと大丈夫」「そんなはずは」という軽い認識が、重大事案につながる可能性が非常に高いことが伝わりました。
- 子どもたちの事象だけでなく、背景にもしっかりと迫ることが大切だと感じました。
- 分かったようなフリをしていたのかなと自分自身の指導を振り返るきっかけになりました。
- 子どものSOSに気付ける教員になりたいと改めて感じました。
- 「キャッチャータイプ」を意識して子どもの話を受け止めたいと思いました。
- 「知識はお守り」今回の研修で教員一人一人がそれをもつことで子どもを守れるようになっていくと感じました。
- 感動しすぎて胸いっぱい言葉が見つかりません。心に響くお話をいただきありがとうございました。

初任者研修（幼小、小中の連携・接続）



第10回初任者研修では、小学校は玉島幼稚園に、中学校は葦高小学校にそれぞれお世話になり、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携・接続をテーマにした研修を実施しました。円滑な連携・接続について考える貴重な学びの場となりました。

（小学校受講者の感想から）

幼稚園の先生方の子どもへの声掛けの的確さが印象的でした。「～しなさい」という指示ではなく「～できるかな」と問いかけることで、子どもの意欲を引き出していました。子どもが自由に遊びの場を選択できる多様な環境づくりにも驚かされました。小学校でも、子どもが主体となるような声掛けや場の設定を考えていきたいと思いました。

研修を通して、環境づくりや声掛けにはどれも目指すべきゴールがはっきりしているのだと知りました。「何を身に付けさせたいのか」「そのためにはどんな場の設定が必要なのか」と、ゴールを設定してから単元計画を立てる、小学校の授業づくりに似ていると思いました。私もゴールを明確にした授業づくりを意識していきたいです。

園長先生のお話の中で特に印象に残っているのは、「できた」「楽しかった」「またやりたい」という、日々の小さな成功体験の積み重ねが、学ぶ意欲につながっているという話です。私も子どもたちにそう思ってもらえるような授業づくりをして、子どものやる気につなげていきたいです。



（中学校受講者の感想から）

実際に小学校の実態を見て、中学校と違うところが多く、驚きばかりでした。児童の発表の意欲や態度、聞く姿勢につながる教師の丁寧な指示が印象的でした。小学校と中学校では学習面だけでなく生活面でも変化が大きいです。中1ギャップで悩む子どもを少しでも減らすためにも、小中の連携や接続の必要性を感じました。

令和の日本型教育として、子どもの側に立ち、子どもを主語にする教育が大切であると学びました。そのために、教師がすべて考えを教えるのではなく、子どもたちに気付かせ考えさせることをしていけないといけないと感じました。「待つ」ということを大切にしていこうと思います。

ロイロノートを活用し、それを児童が自分で操作しながら生き生きと学ぶ姿が何よりも印象的でした。児童が最後まで他の人の発表を聴けるような工夫、洗練された発問は、ぜひ見習いたいと思いました。また、家庭学習がそのまま授業に生きており、グループ活動の時間を十分にとることができていました。私も家庭学習のやり方を見直していきたいです。



倉敷ふれあい教室の行事



倉敷ふれあい教室では5教室合同で体験活動を行っています。教室の仲間と協力することの大切さや、やり遂げた喜びを感じることを目的としています。今年度も「自然体験学習」と「スポーツ大会」を実施することができました。室外の行事や日々の生活の中でも、他教室や自分の教室の仲間との絆を再確認することができるよう工夫を重ねています。

ふれあい自然体験学習 (7/7(金) 倉敷市自然の家)



【主な活動】

- ・じゃんけんゲーム
- ・指キャッチゲーム
- ・スピーカーゲーム
- ・フィールドビンゴゲーム

ふれあいスポーツ大会 (9/15(金) ライフパーク倉敷 大ホール)



【主な活動】

- ・ラジオ体操
- ・スローイングビンゴ
- ・バーステイライン
- ・スプーンリレー
- ・カモとハンター

ふれあいクラスマッチ



今年度実施のクラスマッチ課題

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 5月 『丸描きリレー』 | 6月 『ペットボトルキャップタワー』 |
| 7月 『スローイングビンゴ』 | 9月 『的当てドッジビー』 |
| 10月 『ラーメンゲーム』 | 11月 『ピンポンキャッチ』 |
| 12月 『輪ゴムキャッチャー』 | |

市内に5つの教室がある強みを生かして、互いに離れた教室同士でも一体感をもつことができるように、毎月、共通の課題に挑戦しています。身近にあるものを活用して、シンプルかつ緊張感のある課題について、楽しみながら記録を競い合っています。クラスマッチでは、協力する中で仲間との関わり方を学んだり、成功することによる自己肯定感を向上させたりする等の効果を狙っています。

ふれあい文化祭・ふれあい参観日 (11~12月 各教室)

- 【倉敷教室】 12月 11日(月)、12日(火) 参観日
- 【水島教室】 12月 13日(水) 文化祭
- 【児島教室】 12月 5日(火)、7日(木) 参観日
- 【玉島教室】 11月 20日(月) 文化祭
- 【真備教室】 12月 6日(水)~8日(金) 参観日



「子どもたちが自ら考え、達成感を味わえるようにする。」「学校の先生や保護者と子どもたちが関わる場を設定する。」この2点の方針のもと、各教室で特色のある催し物や作品の展示などを行っています。準備や練習では全員がそろう日はありませんが、登室日には協力して本番の練習や展示物の製作に取り組みました。

倉敷ふれあい教室めぐり

☆ 和気あいあいとした
ゆったりした雰囲気です…

☆☆ 水島教室 ☆☆

倉敷ふれあい教室水島教室は、ライフパーク倉敷内にある倉敷教育センター事務室の隣にあります。福田公園の近くにあることから、公園の散策をしたり、ニュースポーツの用具を借りてきて楽しんだりすることもあります。施設内は空調も完備されており、過ごしやすく、恵まれた環境の中で活動することができます。教室目標は「一歩」です。日々一歩ずつ前向きに進んでほしいという思いをこめて教室に掲げています。

『なかよし活動』では、様々な活動に取り組んでいます。「創作活動」は、工芸・工作・アート作品作りなどをします。科学センターの先生に「科学工作」を教えていただくこともあります。「スポーツ」は研修室での卓球、大ホールでのソフトバレーボールやバドミントン、駐車場横の広場でパタンクやドッジビーなどで汗を流しています。ボランティア活動としてライフパーク倉敷周辺のごみ拾いをすることもあります。夏野菜やひょうたんを育てる「栽培活動」「図書」「昔遊び」「室内ゲーム」「ギター」など、初めてのことにチャレンジして楽しく活動しています。春のハイキングでは種松山まで歩いてアスレチックをしました。『スタディ』の時間には、各自の学習課題に自分のペースで取り組んでいます。自分の決めたペースで登室してなかよく活動し、笑い声の絶えないゆったりした雰囲気の教室です。



【種松山ハイキング】



【ギターにチャレンジ】

☆ 豊かな自然と歴史、
文化に囲まれて…

☆☆ 真備教室 ☆☆

倉敷ふれあい教室真備教室は、真備支所内の保健福祉会館の3階にあります。近くに、井原線の吉備真備駅や真備図書館、真備陵南高等学校等があります。自然に恵まれた大変静かな環境の中、四季の移り変わりを感じながら、様々な活動をして過ごしています。

「スタディ」の時間には、各自で進度に合ったワークブックやプリントを用意し、自分のペースで根気よく学習に取り組んでいます。

「なかよし活動」では、切り絵やレジン、ウッドバーニングなどの創作活動、卓球等のスポーツ、英語（NET）やタブレットを使用した学習活動、栽培活動、清掃奉仕など、多岐にわたる活動を行っています。また、真備図書館へ本を借りに行ったり、真備公園へ散策に行ったり、ショッピングモールに遠足に行ったりするなど、地域に出掛ける活動も行っています。



【散策】



【スポーツ】



【学習(英語)】



【創作活動】

様々なことを体験する中で、できることを増やし、達成感を味わったり協力することの楽しさを感じたりできたら良いと考えています。そして、少しずつ自信を積み重ねて新たな一歩を踏み出せるように願って、活動に取り組んでいます。